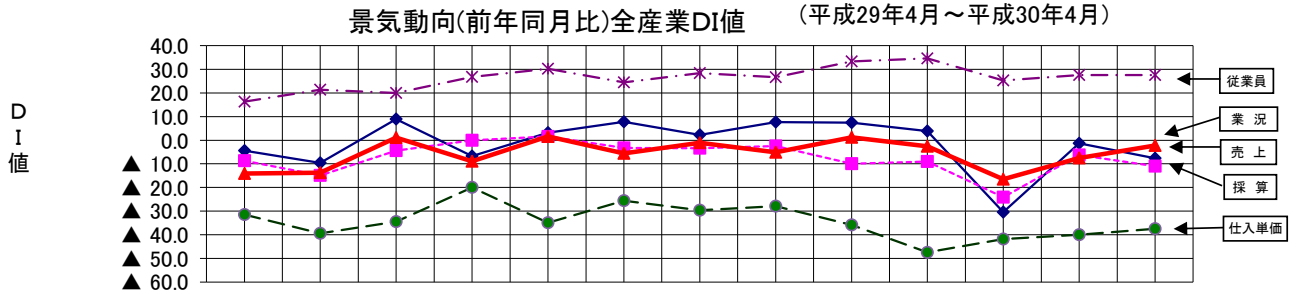


早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 4月分

【4月の概要】 景況感はやや改善の動き、先行きは依然として慎重な見通し

3月に比べると、業況DI、仕入単価DIのマイナス幅が減少しているものの、売上DI、採算DIのマイナス幅が増加している。従業員DIのプラス幅は変化なし。建設業や製造業では業況は上向き傾向との声が聞かれるが、幅広い業種で人手不足と仕入コスト増が続いており、景況改善に影響を及ぼし、全体的な景況感は横ばいの動きとなっている。

先行きについては、3月に比べ、売上DIはプラス幅がやや減少し、仕入単価DIのマイナス幅も増加しているが、採算DIのマイナス幅はやや減少し、業況DIはマイナスからプラスに転じて、やや改善している。従業員DIはプラス幅が増加した。景況の回復基調は緩やかに続いているものの、人手不足と仕入コスト増が依然続く見通し。



	平成29年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平成30年 4月
◆ 売上	▲ 4.4	▲ 9.6	8.9	▲ 6.7	3.2	7.8	2.3	7.6	7.4	3.9	▲ 30.4	▲ 1.3	▲ 7.7
■ 採算	▲ 8.7	▲ 14.9	▲ 4.4	0.0	1.6	▲ 3.3	▲ 3.4	▲ 2.5	▲ 9.9	▲ 9.0	▲ 24.1	▲ 6.3	▲ 11.0
▲ 業況	▲ 14.1	▲ 13.8	1.1	▲ 8.9	1.6	▲ 5.6	▲ 1.1	▲ 5.1	1.2	▲ 2.6	▲ 16.5	▲ 7.5	▲ 2.2
● 仕入単価	▲ 31.5	▲ 39.4	▲ 34.4	▲ 20.0	▲ 34.9	▲ 25.6	▲ 29.6	▲ 27.9	▲ 35.8	▲ 47.4	▲ 41.8	▲ 40.0	▲ 37.4
* 従業員	16.3	21.3	20.0	26.7	30.2	24.4	28.4	26.6	33.3	34.6	25.3	27.5	27.5

【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

業況DIは5.3ポイント、仕入単価DIは2.6ポイント、マイナス幅が減少した。売上DIは6.4ポイント、採算DIは4.7ポイント、マイナス幅が増加した。従業員DIはプラス27.5ポイントで変動なし。

全産業平均DI - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	仕入単価	従業員	業況
3月	7.5	▲ 6.3	▲ 26.3	17.5	▲ 3.8
4月	3.3	▲ 3.3	▲ 33.0	24.2	1.1

先行きは、売上DIは4.2ポイントプラス幅が減少し、仕入単価DIは6.7ポイントマイナス幅が増加した。採算DIは3.0ポイントマイナス幅が減少し、業況DIはマイナスからプラス1.1ポイントに転じた。従業員DIは6.7ポイントプラス幅が増加した。

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	設備工事	売上は、民間工事を中心に上向き傾向。人員不足により賃金が上昇している。
	総合建設	現在は高度成長期に作った大型建物の改修工事が多く出てきて、今後も続く見通し。
製造業	機械部品	中国を中心としたアジアの需要が安定し売上は伸びている。資材・物流費用は上昇している。
	食料品	ダンボール、ガソリン、人件費の上昇により経費が増加している。
卸売業	精肉	輸入品の増加により、仕入の国内価格は下落している。
	薬品	原材料価格の上昇により、仕入価格の値上げが始まった。
小売業	家具・雑貨	店舗の客数が減少し、客単価も減少している。
サービス業	ビルメンテナンス	人手不足をどう克服するかがポイントである。採算は人件費の増加で、やや悪化している。
	ソフトウェア	ソフトウェア開発業は、世間で言われるような人手不足感はないが、採用難ではある。業況はあまり変化がない。
	不動産	土地の売買が活発に動いてきた、また、店舗の閉鎖も同様に増加してきた。